



MCA 無線で市民の生命と財産を守る！！

神崎市様には 2020 年 9 月に MCA 無線をご導入いただきました。今回、導入の経緯、利用方法等について神崎市総務企画部 防災危機管理課 防災係長 山崎様にお話を伺いました。

【神崎市のプロフィール】

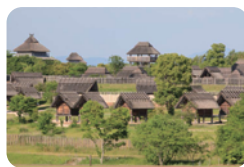
佐賀県東部に位置する神崎市（人口 31,258 人 令和2年12月31日現在）は、平成 18 年 3 月に神崎町・千代田町・脊振村が合併・市制施行し、神崎市として発足しました。全国的に有名な『吉野ヶ里歴史公園』や、国の名勝指定を受けた『九年庵』、『王仁博士顕彰公園』をはじめ、歴史や自然を感じる観光地です。

神崎市マスコットキャラ
くねんワン



九年庵

明治の大実業家伊丹弥太郎の別邸と庭園で紅葉の名所です。秋と春に期間限定で一般公開をしています。



国営吉野ヶ里歴史公園

700 年続く弥生時代の全ての時期の遺構、遺物が出土した学術的価値の高い遺跡で、日本最大規模の環壕集落です。



王仁博士顕彰公園

日本に初めて漢字と儒教を伝えた人物であるとされる王仁（わに）博士を顕彰した公園です。



神崎市マスコットキャラ
くねんニャン

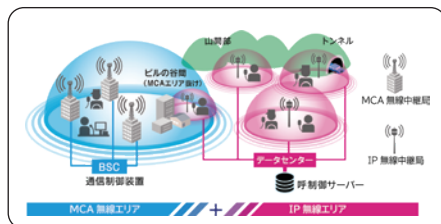
【防災行政のために MCA 無線を導入】

神崎市では合併前のそれぞれの自治体で、400MHz 帯の移動系防災行政用無線を利用していたため相互接続が出来ない等、運用上の課題がありました。

そこであらたな無線システムの導入に MCA 無線を検討いたしました。MCA 無線は、1) 災害時にも確実に使えること、2) MCA 無線中継局は山上局のため通信エリアが広く神崎市全体をカバーするのに十分であること、3) 中継局の建設が不要で統一システムの整備費用が財政的に有利であったことから MCA 無線 74 台（車載型 54 台・携帯型 20 台）を導入いたしました。

【二重化された mcAccess e + の安心感】

神崎市では従来の MCA 無線と NTT ドコモの IP 無線の両方のエリアで通信できる『mcAccess e + (エムシーアクセスイープラス)』を利用しています。MCA 無線と IP 無線で二重化されているので通信エリアが広くまた災害時等に通信が途絶え難いのでとても安心感があります。



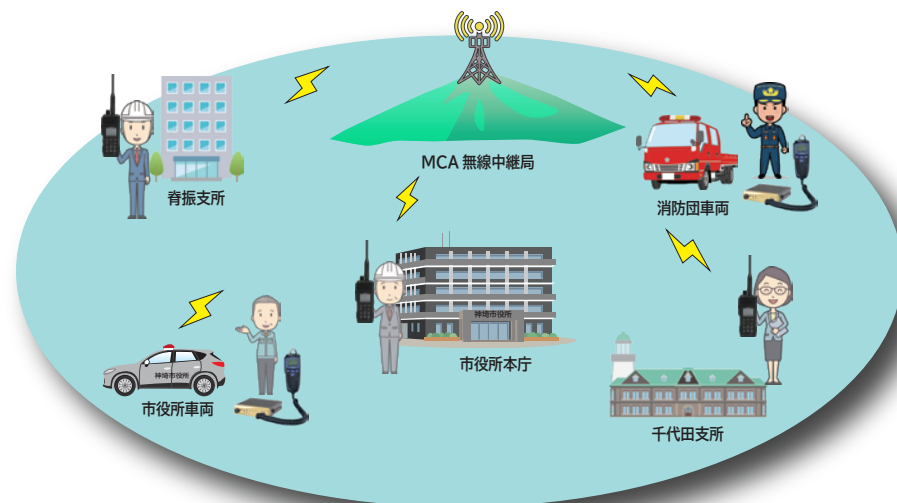
mcAccess e + サービス概念図



mcAccess e + 対応端末

【MCA 無線の活用と魅力】

神崎市の消防団は 8 分団を抱え約 1,000 人で構成されています。消防団は救助・救出活動、警戒巡視活動、災害防御活動、避難誘導活動等をはじめとする地域コミュニティの防災活動において重要な役割を果たしています。そのため、消防団の車両、市役所の車両には車載型端末を配備しています。また、市役所本庁と各支所には携帯型端末を配備し、市役所と消防団の連携に活用しています。プレストークボタンを押すだけで一斉通信・グループ通信・個別通信と様々な通信形態により情報共有が手軽に利用できるので MCA 無線の魅力です。



【市民の生命と財産を守る】

災害が発生せず、MCA無線の活躍の機会がないことが望ましいことですが、日頃から災害時に備え、MCA無線による通信がスムーズにできるようにする必要があります。このため、無線機の使い方については、防災等の訓練や各種イベントの機会を利用しながら無線機取扱いの習熟度を上げ、防災体制の充実・強化を図り市民の生命と財産を守って参りたいと思っています。

神崎市の名物『神崎そうめん』

「神崎そうめん」の歴史は、今から約 390 年前の寛永 12 年（1635 年）小豆島より行脚遍歴してきた雲水が、長崎街道の神崎宿で病に倒れ、これを地元の行商人が手厚く看病し、そのお礼に手延べそうめんの秘法を伝授したのが始まりと伝えられています。脊振山系の良質な水と佐賀平野の小麦、豊富な水量を活かした水車の利用と恵まれた風土で製麺業が盛んになりました。そのコシの強さ、喉ごしの良さはいまや神崎ブランドとして全国に知られ、夏は冷やしそうめん、冬はにゅうめん、1 年を通じて美味しく食べていただけます。

